CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要

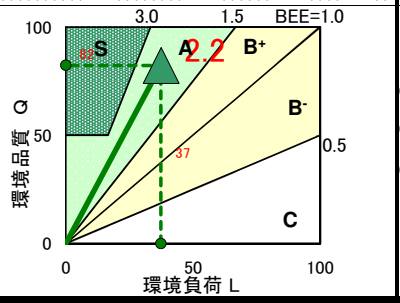
建物名称	焼津市新庁舎	階数	地上8F
建設地	静岡県焼津市本町2-16-32	構造	SRC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	700 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月　予定	評価の実施日	2019年2月20日
敷地面積	9,129 ㎡	作成者	佐藤　陽
建築面積	4,147 ㎡	確認日	2019年3月6日
延床面積	20,481 ㎡	確認者	香月卓也

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

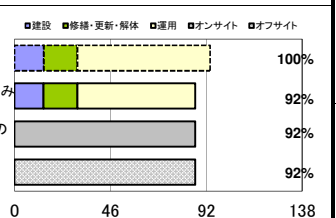
BEE =2.2

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



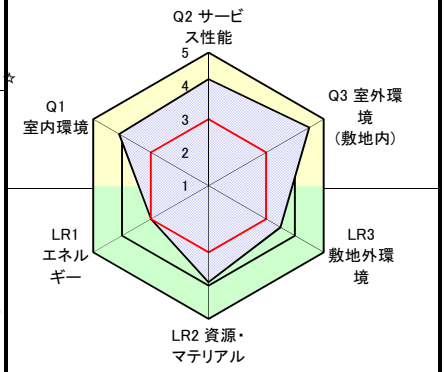
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

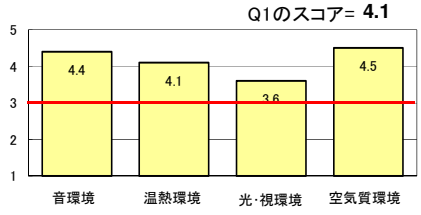
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



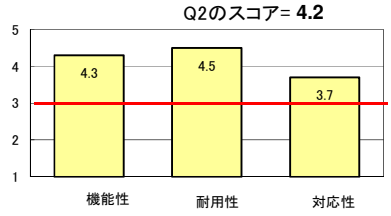
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 4.2

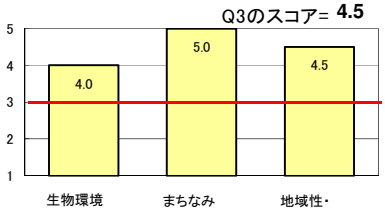
Q1 室内環境　Q1のスコア= 4.1



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 4.2

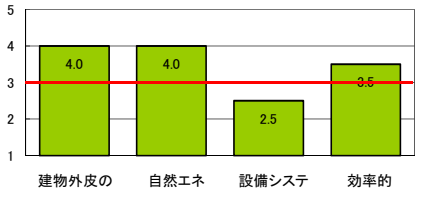


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 4.5

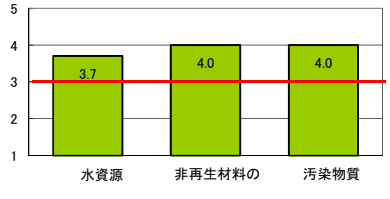


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.5

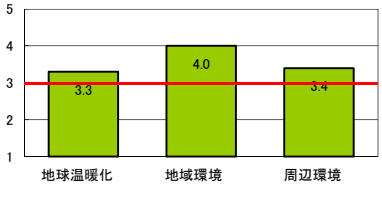
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.9



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.5



3 設計上の配慮事項

総合	その他
RC+SRC+S造・Pca床版採用・中間層免震（2F床下）で地震や津波に耐える①冗長性の高い構造で長期使用に耐える市庁舎としている。②執務室天井高確保、③南側の深い庇での直日射カット、④自然換気の利用、⑤全照明のLED化、⑥太陽光発電装備、⑦地中熱（井水）の一部空調熱源利用、⑧井水のトイレ洗浄利用、⑨夏期ナイトパージ、⑩床空調吹き出しによる居住域空調などにより、市民サービスの向上と職員の業務環境の向上に努める。	掘削土を「緑の堤防」の盛土公共事業に活用、ｴﾐｯｼｮﾝ削減に努める。記念樹の移植(ｸﾛﾏﾂ3本)・高木(ｸｽ3本)と周辺低木(ｻﾂｷ)の保存、姉妹都市の記念碑・ﾀｲﾑｶﾌﾟｾﾙ移設等既存樹木等の保全に努め、現地建替に伴い歴史を継承。

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
執務室はPca床版の採用した直天井で経済的で天井高確保。南面は庇で直射光を適切に制御。R形状Pca床版で照度均等化とｸﾞﾚｱ防止。照明空調共にｿﾞｰﾝ制御。ﾄﾞﾗﾌﾄ感を抑えた床空調。最上階一括給気。夏期のﾅｲﾄﾊﾟｰｼﾞ。	天井高最大3.6m大部屋方式でﾚｲｱｳﾄ変更自由度と広がりを確保。OAﾌﾛｱの採用・維持管理しやすい内外装・高耐久性材料使用。設備更新が容易な計画。中間層免震採用で地震津波被害への高い冗長性。日本初の津波個別認定取	緑化は塩害に強い樹種で維持管理・視認性を確保して計画。ﾋﾞﾛﾃｨや大庇を設け外部と建物内部の中間領域を計画し景観と利用者のｱﾒﾆﾃｨに貢献。既存記念植樹・記念碑等も敷地内で再配置し永く親しまれてきたものを継承。

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
開口部はLowEｶﾞﾗｽ・複層ｶﾞﾗｽで昼光活用・遮断熱性能両立。西東面の開口面積制限し熱負荷を軽減。高性能空調機採用＋ﾍﾟﾘﾒｰﾀｰのﾌｧﾝｺｲﾙで負荷の制御。照明・空調共各階各階ｿﾞｰﾝ毎制御可能。自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用は、井水利用ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ、自然換気、太陽発電、BEMS導入で最適運転。	ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ熱源利用後の井水はﾄｲﾚ洗浄水に活用(ｶｽｹｰﾄﾞ利用)。Pca床版採用で南洋材等の型枠を抑制。ｴｺﾏﾃﾘｱﾙを可能な限り使用。有害物質を含まない材料を使用。ｻｰﾊﾞｰ室の特殊消火剤もODP、GWPの低い不活性ｶﾞｽを使用。内装・造付家具等に県産材を可能な限り使用予定。	卓越風「ならい(冬季北東風)」に配慮した建物配置と主出入り口の計画。ﾒｲﾝ機械室や室外機を最上階に配置し、振動騒音は規制値に抑え周辺への影響を最小限にとどめる。日影規制は無いが、建物を敷地南に寄せて配置し敷地北側に対し十分な空間を確保し対策を講じた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される